

## 会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成17年度第6回定例会
開催日時	平成17年9月21日（水曜日） 18時30分から20時43分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	<p>会長：武田雅子          副会長：野間春二          委員：木村俊二、細井邦夫、濱崎昌子、柳澤英之、下栗庸隆、富澤佳代子、伊波真貴子、森忠、石橋いづみ、紺野和子、遠山久敬、奥田泰弘          職員：島崎館長、近藤事業係長、伊佐分館長、長谷部分館長、玉木分館長、香坂分館長、小林分館長、藤森公民館主事、村上公民館主事</p>
欠席者	なし
議題	<p>(1) 第5回定例会会議録について          (2) 報告事項              1. 行政報告              2. 事業計画・報告書について              3. 公民館だより編集会議報告              4. 関ブロ大会参加者報告          (3) 協議事項              1. 講師派遣事業について              2. 公運審委員の役割          (4) 次回の日程について</p>
会議資料の名称	<p>(1) 事業計画書              1. 遊ぶ・学ぶ・つながる 子どものからだと心が育つ その2（保谷）              2. こども世界料理教室（田無）              3. ボランティア講座 ハンディキャップゲームを創ろう（田無）              4. 中国古代思想入門 現代に生きる「陰陽五行説」（田無）              5. ビデオで作品を作ろう（田無）              6. 環境講座「エネルギー 人は、エネルギーをどう利用してきたか」（田無）              7. 同級生を空襲で亡くして 散華乙女の碑と平和の祈り（芝久保）              8. シニアクラブ・明治人たちの軌跡（芝久保）              9. 日本酒入門（谷戸）              10. カービングに挑戦（谷戸）              11. 子どもいろいろ体験教室（住吉）          (2) 事業報告書              1. 初心者のための陶芸教室（芝久保）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

## 会議内容

### (1) 第5回定例会会議録について

#### ○委員：

講師派遣事業について、会議録の3ページに謝礼の金額がいつから現在の金額になったのかという質問が出たが、回答はいつか。また、市長への手紙を提出した団体があったという報告もあるが、その後どうなったのか。新年度からの要綱は既にできているのか。

利用者懇談会が各館で開催されると思うが、昨年も方法や内容はバラバラであった。統一すべき内容は、あるのか。その考えはあるのか。

#### ○館長：

講師派遣事業20年以上前から続いている事業であり、いつから今の謝礼の額になったものかはまだわかっていない。すぐには答えられそうにない。市長への手紙は、通常関係ある所管の部署に転送され、そこで回答を書くことになっている。当該団体には、事実を説明する内容の回答を送信した。新年度の要綱はまだできていない。年内には調整したいと思っている。

公民館は、地域性を持ったものと考えている。公民館統一の説明会でもその趣旨で話している。したがって、各館特徴を持ったかたちで利用者懇談会も開催しているが、統一して説明した方が良い内容のものは開催日までに調整したい。

#### ○委員：

来週から懇談会は始まる。どのような形で進めたいということはまとまっているのか。

#### ○委員：

今回の利用者懇談会でメインになる報告は何か。

#### ○館長：

利用者からの質問は、市報に掲載される行革大綱についてではないかと考える。

#### ○会長：

各館の方針を確認したい。

#### ○谷戸分館長：

市民からは、職員の説明会にならないようにしてほしいという意見が出ている。利用者どおしの懇談ができるように心がけていきたい。

#### ○住吉分館長：

私は初めての懇談会になる。見当がつかない部分があるが、参加者の意見を聞きながら進行したい。

#### ○芝久保分館長：

利用者間のルールが決められるような形にしていきたい。できる限り要望を受けたい

と思う。

○ひばり分館長：

私も初めての懇談会であるが、館の運営についての意見が多く出ると聞いている。団体相互の連絡の場として使ってもらいたい。

○委員：

講師派遣事業についての説明はしないのか。

○館長：

質問が出れば別だが、各館ともこちらから話す予定はないと思う。

○会長：

委員も交代でできるだけ出席しているが、過去の例を考えても、後ろの方で黙って座っていることが多い。どんな内容について報告等があるのかという情報を事前につかんでいると、委員としての見解も述べやすくなると思う。

## (2) 報告事項

### 1. 行政報告

○館長：

9月議会が9日から29日まで開催されている。一般質問で、公民館については1件質問が出た。内容は、第二次行革大綱の中で公民館事業の見直しという項目があるが、社会教育の位置付けを明確にすべきではないかという趣旨のものだ。これに対しては、公民館・図書館ともに教育機関として位置付けていること、教育プラン21でも地域の中での社会教育活動の促進を明記している。市民の多様な学習要望に応えていきたいという趣旨と公民館は教育機関であるということをしかりと含んだ答弁をした。

明日から予算特別委員会が開催される。また別の趣旨で質問が出るかもしれない。

西東京財政白書が発刊された。興味がある委員は、購入してほしい。

### 2. 事業計画・報告書について

○委員：

田無のビデオ作品を作ろう、の講師謝礼はなぜ必要ないのか。カメラやパソコンを持参することが条件であるが、そのことの是非についてはどう考えるか。

○職員：

講師はNHKの社員であり、今回の不祥事の関係なのか、謝礼は受け取らないということであった。機器を持っている人を対象にすれば参加者は限定されてしまうが、デジタル機器を持っていても使いこなせない人も多くいる。そうした人を対象に講座を企画した。

○委員：

機器を持っていない人でも、見学だけでも良いという配慮はできないのか。12人の定員は部屋の大きさに対してあまりに少ないのではないか。

○職員：

講義ではなく、実技中心であり、見学では理解できないと思う。また、講師陣の数から、定員の12人で手一杯だと思う。

○委員：

田無の陰陽五行は以前もやった記憶がある。同じ講師なのか。その際にできたと聞く易の会は今でも活動をしているのか。

谷戸のカービングの材料費はナイフだけか。

○職員：

いずれもそのとおりだ。

○委員：

住吉の子どもいろいろ体験教室の実地踏査はどうなっているか。子ども対象の事業であるが、外出前の事前指導等は予定されているようには見えないが、車内でのレクチャー等を予定しているのか。

○職員：

去年は実地踏査の日に雨が降ってしまい、内容を変更したと聞いているが、今年はきちんと調べてから実施したい。補助員は3人を予定しており、万全を期したい。

○委員：

芝久保のシニア講座の実地踏査は行うのか。市のバスはいつでも使うことは可能なのか。

○職員：

今回は実地踏査の予定はない。市のマイクロバスは、予約を取ればいつでも使える。

○職員：

田無公民館では、外出を伴う事業では必ず実地踏査はするようにしている。

○会長：

館外の活動で、一度でも事故があると全体が台無しになる。念には念を入れて事前準備をしてほしい。

○委員：

田無の環境講座の対象はどの年代をターゲットにしているのか。平日の昼間では、仕事を持つ人の参加は無理である。

○職員：

中高年の市民である。

- 委員：  
田無のボランティア講座の事業目的に、ボランティア（奉仕）とあるが、ボランティアを奉仕として捉えているのか。それは、西東京市全体がそうした考えなのか。
- 職員：  
市の考えではない。今回の講座開設に当たっての考えである。
- 委員：  
ボランティアとは、奉仕ではないという考えもあり、確認する意味で聞いた。
- 委員：  
奉仕であるか、否かはそれぞれの考えであろうが、違和感を感じる人もいるということだと思う。このことは、誰がどうしたらよいという趣旨のものではないと思うが、質問者は主催者としての考えを確認したいという趣旨であろう。
- 職員：  
今回は、単なる施設見学をして障がい者や高齢者に接するというだけでなく、活動をとおして思いやりの心を養いたい。それを奉仕という言葉にしたわけである。今回は高齢者施設での体験であるが、次回は障がい者施設での事業を予定している。  
独自のゲームを作るのは困難性があると思うが、チャレンジしてみたい。
- 委員：  
ハンディキャップゲームを作ろうという事業名称であるが、内容が理解できない。ゲーム作りの重要性を説明してほしい。
- 職員：  
事業目的の中で説明したつもりでいたが、反省したい。  
いわゆる出来合いのゲームを使って遊ぶということだけでなく、高齢者とともに楽しめるゲームを創作するということだ。
- 会長：  
説明の書き方で各人の捉え方が異なってしまうので、適切な表現にしてほしい。
- 委員：  
この事業は青少年対象ということだが、高校生以上だけでは年齢が高過ぎて、青少年対象と言えるのか。
- 職員：  
今回は、自分たちでゲームを創造しながら活動しなくてはならないので、中学生以下ではちょっと難しすぎると考えている。
- 委員：  
高校生も青少年に入るし、小中学生が入ってなくても館側のレベル設定に矛盾はな

いと思う。

○委員：

高校生が対象という、18時30分の事業スタートは下校時刻に間に合うのか。

○職員：

高校と相談して決めているので、大丈夫だと思う。

○委員：

先ほどのボランティアが奉仕活動であるのかどうかということについての、質問者の見解を聞きたい。

○委員：

奉仕という言葉には「〇〇をしてあげる」という意味が含まれていると解釈している。私は、ボランティアは「〇〇をしたい」という自己の意思で行うもの、という解釈している。

### 3. 公民館だより編集会議報告

○委員：

9月3日に編集会議を開催した。

9月号の「とねりこ」の活動は、子育て支援の活動が進みだしたという報告を受けている。これからもこうした情報の提供に努力したい。

10月号の予定は、オンリー・ワン・クルーの紹介と、サークル訪問は田無の「易の会」を掲載する。

編集会議で出た意見であるが、講師に小野紀之氏の名前が2度あった点。会員募集欄で、規定の回数以上掲載している団体が発覚した。今後は、受付時に細心の注意を払いたい。

### 4. 関ブロ大会参加者報告

○委員：

第3分科会に参加した。アンティーマ多摩というNPO法人の報告を受けた。

公民館とNPOの差について話されていたのが印象的であった。

○委員：

第4分科会に参加した。青少年とその育成について松戸市の事例報告を受けた。公民館が少ない市ということで、担当者が車に荷物を積んで講座をしているという。公民館がない代わりに青少年会館が多く使われているようだ。青少年事業を行うには、こうした名称の施設が集まりやすい要因なのではないかと思った。

○委員：

第1分科会に参加した。200人を越える参加者が集い、盛況であった。

伊勢原ボランティア協会の報告を受けた。テーマは、住民が公民館に今求めているもの、ということであったが、協会の年間計画の発表はあったが、テーマに沿った報告は

少なく感じた。報告後の質疑応答の時間にその点について確認があったが、公民館が陰に隠れてしまった報告であった。

○委員：

第2分科会に参加した。テーマは公民館運営審議会の活性化である。

経費削減で、職員の減、公運審予算の減が続いているとの報告であった。西東京にあった運審の活動は西東京で考えるべきだと思った。地域によって、事業も異なる。名前だけの公民館にならぬよう心しなくてはならないと感じた。

全体会の永年勤続表彰で西東京の職員も受賞したのに、該当職員が不参加だったのは残念であった。1年前から決まっていた日程なのに、出席できないのは配慮が足りないのではないかと感じた。

○会長：

ここで暫時休憩する。

19時47分休憩

19時55分再開

### (3) 協議事項

#### 1. 講師派遣事業について

○副会長：

年内に要綱の案は作られるという報告は先ほど受けた。今日は、7月13日に講師派遣事業の報告会兼懇談会があったが、そのときの運営についてを中心に意見を述べてほしい。要綱も検討中ということなので、それに対する意見もあれば述べてもらって結構だ。まずは、出席していない委員のために、当日の様子を説明してほしい。

○職員：

7月13日の午後7時から9時10分、出席者は16人でそのうち5人は運審委員である。会の前半は実施団体の報告を受けた。6団体中5団体の出席で、各会の反省などを聞いた。他の団体の意見も聞いて大変有意義な雰囲気で行った。

その後、答申文への意見なども含めて、懇談会という形式で進めることになった。一問一答にすると職員と質問者のやり取りで終わってしまうので、とにかく参加者の意見を聞きたいということでスタートをしたら、その運営方法についてクレームがでてしまった。ただ聞き置くだけで形式的ではないか、対話をすべきであるという意見が多く出た。

次回の開催では、今回出た多くの意見に対しての回答をしていきたい。そこではまた質問・意見が出ると思うが、これらを含めてまとめをしていきたいと思っている。2月までには成案ができていないといけないと思っている。

次回の開催は、10月22日の土曜日、午後2時から保谷公民館で行う。

○副会長：

当日の様子は、委員から述べてほしい。

○委員：

前半は大変良い雰囲気であった。

しかし、後半の運営については、もう一工夫が必要と思う。やはり聞くだけというのでは不満を感じてしまうのだと思う。答申文の表現についての意見が多く出た。

○委員：

質問にも上がっていたが、諮問したことを知らせなかったのがまずかったのではないかと感じた。市民にも投げかける必要があったと思う。今何を行っているのかはガラス張りにすべきだ。

自分たちの頑張りが伝わらなかったことに対しては、大変寂しく思った。今後は市民の意見を取り入れていきたいと思う。

○委員：

利用者の声は大変ありがたかったが、こうした場での発言者は数が限られてしまう。それに一問一問納得がいくまで答えていると、時間は限られているので困難であったと思う。

○委員：

意見を言う人は限られており、1人で長々と発表されると他の人は引いてしまう傾向がある。答申文の文章表現については、ある程度は理解を示してほしかったが、説明をうまくしていけば理解してもらえるような気もする。

参加者11人はあまりに少ないと思う。その上今回は、利用した団体の人ばかりであった。むしろ利用者懇談会で聞いた方が、他の意見も出るのではないかと思った。

○委員：

参加した人から、当日の議事録を出すように要求している人もいたが、それを出すことで、この会に参加していない市民に様子を伝えることも可能かと思った。

○館長：

議事録については要望があったが、最初から公開することを前提に諮っていただければよいが、その予定はないということで進めていたことを理解してほしい。すべての質問に回答していると、たぶん1人目の質問だけで時間切れになったと思う。そのことを見越して、今回はあえて聞き置くということで運営してみた。

○委員：

市民の一方的な発言に対して、対抗して意見を述べることのできる市民を育てるべきということだと思う。

○副会長：

答申文の文言についてのクレームが多かったようだが、会の趣旨はそういうことではなく、今後この事業をどうしたら使いやすくなるのかということではなかったのか。縮小や廃止を説明したわけではないのだから、もう少し建設的な意見が出ていても良いのではないかと感じた。

過去には、利用者懇談会を公運審委員が主催で市民の意見を聞く会というものを開いたことがある。いろいろな意見を述べる人が現れて集約は大変であったと思うが、答申文を書いたのは運審であり、職員がその説明をするのも違和感があるのかもしれない。

10月には第2回目の報告会兼懇談会が予定されている。運営についてはどう予定しているのか。

○職員：

二部構成で行いたい。前回と同じであるが、午後3時から1時間は懇談会を行いたい。前回の質問に対しては回答を用意したい。

○委員：

質問が出たときに、全部聞くだけということだけでなく、内容によっては市民に振ってみてはどうか。

○委員：

前回出席してみて、何か異様な雰囲気を感じた。

市民が一方向的に職員を攻め立てるのではなく、ある人の意見を他の市民に返しながらか進める方が良いと思う。

○職員：

運審の方も、ぜひ積極的に質疑に加わってほしい。運審委員ということだけでなく、市民として意見を言う機会が必要だと思う。

○副会長：

運営については、十分煮詰めておいてほしい。

## 2. 公運審委員の役割

○副会長：

前回までの奥田委員のレクチャーを受けて、自主勉強会を開催した。内容について会長から述べてほしい。

○会長：

自主勉強会で出た質問事項についてまとめたものを机上に配布させてもらった。

当日は、11人の委員が参加し大変活発に意見交換が行われ、頼もしく思えた。しかし、さらに理解を深めないとならない事項があるので、もう一度奥田委員にレクチャーしてほしいと思う。当日出席できなかった委員には、これに加えることがあればと思う。

○委員：

当日は参加できなかったが、今後も自主学習を続けていきたいと思う。

○副会長：

では来月の席で、質問事項について再度のレクチャーをお願いしたい。

○奥田：  
承知した。

(4) 次回の日程について

○副会長：  
次回の日程を確認する。  
10月19日（水曜日） 午後6時30分  
田無公民館 第2学習室  
これにて、本日の会議を散会する。